

28PB-am242

ラミニンと結合する *Trichosporon asahii* 細胞表層分子の探索
○五十嵐 昂貴¹, 市川 智恵¹, 池田 玲子¹ (¹明治薬大・感染制御)

【目的】 *Trichosporon asahii* は深在性トリコスポロン症の起原因菌として知られているが、その病原因子は明らかでない。我々は、宿主細胞との相互作用が病原性に関与すると考え、細胞外基質の主要な成分で細胞接着分子としても機能するラミニンに着目し、ラミニンと *T.asahii* 表層分子との相互作用を検討した。

【方法】 *T. asahii* 臨床分離株 2 株から塩化リチウム法により表層タンパク質を抽出し、陰イオン交換カラムに吸着させた。濃度の異なる塩化ナトリウムを添加したリン酸バッファーで段階的に溶出し、各画分についてドットプロットおよびファーウエスタンブロッティングによりラミニンとの結合を検討した。相互作用の検討には、表面プラズモン共鳴法も使用した。ラミニン結合性を有する各画分のタンパク質を SDS-PAGE で分離し、PVDF 膜に転写後、CBB 染色を行った。また、ファーウエスタンブロッティング法によりラミニン結合性を有するバンドの検出を試みた。

【結果および考察】 ドットプロット・ファーウエスタンブロッティングおよび表面プラズモン共鳴法の結果から、陰イオン交換カラム溶出画分のうち、リン酸バッファー・0.1M NaCl・0.2M NaCl 溶出画分でラミニンとの結合が認められた。SDS-PAGE 後の CBB 染色では、ラミニンに結合する画分中に、2 株に共通するバンドが複数認められた。したがって、*T.asahii* 表層には、宿主ラミニンと結合するタンパク質が複数存在することが示唆された。